

ほろと



No. 12
2004 Summer

が ん し ょ う ざ ん
含松山
臨南寺



大本山總持寺贈西堂
当山二十二世再中興

朴洲剛毅大和尚遷化



職を歴任いたしました。こうした功績が認められ、本寺の興聖寺からは「再中興」を、大本山總持寺からは「贈西堂」を賜りました。

高祖道元禪師に対する追慕の思いは篤く、平成十四年、大本山永平寺で行われた高祖道元禪師七五〇回大遠忌の際、焼香師を務められたときには特に喜んでおられました。

なお、密葬は近親、法類にて済ませました。本葬儀は、大本山總持寺貫首大道晃仙猊下を導師に拝請し左記のとおり営みます。

かねてより病氣療養中の当山住職・渡邊剛毅大和尚は、さる七月二日永眠いたしました。世寿八十五歳。大正、昭和、平成と三代にわたる激動の時代を、禅道一筋に生きた生涯でした。

臨南寺の本堂、庫裏、会館等を苦心して再建されるとともに、大本山總持寺でも要

- ・ 本葬儀告別式 平成十六年九月七日(火)
- ・ 時間 午後一時より三時まで
- ・ 場所 臨南寺本堂

渡邊剛毅大和尚の略歴

- 大正九年三月八日 誕生
- 昭和十六年 三月 愛知県第一師範学校卒業
- 昭和十六年 四月 曹洞宗日泰寺専門僧堂安居(昭和十八年三月之暇)
- 昭和二十二年 二月 臨南寺住職を拝命
- 昭和四十三年 十月 大本山總持寺副監院兼會計部長に就任
- 昭和四十七年十二月 大阪府宗務所長に就任
- 昭和五十二年 一月 大本山總持寺顧問に就任
- 平成 七年十月 権大教正に補任せらる
- 平成 八年 二月 紫紺恩衣被着許さる
- 平成 九年 四月 住職五十年永年勤続表彰
- 平成 十年 二月 大本山總持寺監院に就任(平成十四年二月任期満了により之暇)
- 〃 二月 学校法人総持寺学園理事長に就任
- 〃 三月 大本山總持寺社会事業部理事・理事長に就任
- 平成 十二年 九月 大本山總持寺祖院御征忌会板橋興宗禪師御代理を拝命
- 平成 十四年 九月 大本山永平寺高祖道元禪師七五〇回大遠忌焼香師を拝命
- 平成十六年七月二日 示寂

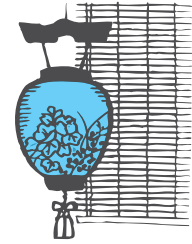
遺偈(辞世の句)

生死如夢 八十五年
蘆花帶雪 午後月圓

母の供養がお盆の始まりでした

お盆のことを、お寺では盂蘭盆会うらぼんえといいますが、お釈迦様の弟子のなかでも特にすぐれた「十大弟子」の一人に目連もくれん尊者そんじという人がいました。この人は「神通第一」と呼ばれ、遠くの物事をいながらにして見たり聞いたりできました。あるとき、目連は亡き両親の供養をしようとして得意の神通力で死後の世界を覗いてみました。

すると、父は天上界にいましたが、母は餓鬼道に落ちて苦しんでいました。目連は驚き悲しみ、神通力でご飯を母に届けますが、食べようとすると炎に変わってしまいます。そこで、お釈迦様に助けを求めました。「おまえの母の罪は重いのでおまえ一人の力ではどうにもならない。しかし、大勢の僧が懺悔げんげして修行に打ち込む日が迫っている。この日に僧たちにたくさんのお供えを



して両親の回向を頼むがよい」この教えを受けて、目連は諸仏衆僧にお願いして父の供養をしてもら



臨南寺 住職
大澤正道

いました。そしてようやくの思いで、母を救うことができたのです。

これがお盆の始まりです。お盆は、このように、亡くなった祖先への追善供養です。臨南寺でも、八月一日から、棚経のお勤めをさせていただきます。八月十六日には、本堂において、送り盆にあわせて盂蘭盆会大施食会を修業いたします。各家のご回向をさせていただきます。各々ので、ぜひご焼香にお参りください。また、何らかのご都合でお参りできない方は、不参にてご回向をお受けいたしますので、お問い合わせください。

方丈のご遺志を受け継ぎ、臨南寺の護持、興隆に務めさせていただきます。

願いを込めた灯りが揺れる。 弁天さま万灯会

八月十二日（火）の夕方から臨南寺の境内は、幻想的なシーンに包まれます。いくつもの灯りが揺らめいて、そこに生命が息づいているかのようです。恒例となりました「弁天さま万灯会」。今年は少し規模を縮小して行います。

弁天さまは、知恵と財福と音楽の神様。合格祈願、芸能上達、商売繁盛にも霊験あらたかと伝えられています。

本堂前にはみなさまの願い事を書き入れていただける献灯をご用意しております。ご先祖や亡き人の菩提をとむらい、みなさまの願いをご祈念させていただきます。どうぞお問い合わせの上、お参りください。

法要は、午後六時四十分からと午後八時から執り行います。



お釈迦様ものがたり ⑤

祇園精舎への道



人を見て法を説く

前回お話ししましたように、宇宙の原理を悟ったお釈迦様は説法をはじめました。最初の説法を行ったサールナートの近くベナレスという町にヤサという豪商の息子がいました。贅沢な生活を送っていました。心にはすさまじい風が吹いていました。お釈迦様はヤサに三つのことを教えました。

一つ目は、慈悲の心の大切さ。生活に困っている人や修行者へ施しを与えること。二つ目は、道徳を守ることの大切さ。生き物を殺さない、盗まない、淫らなことを慎む、嘘をつかない、他人を思いやること。三つ目は、この二つを守っていれば、来世は必ず極楽浄土に生まれ変わること。

お釈迦様は商人など在家の人にはやさしく、いねいに説きました。これがお釈迦様の説法の特徴で、「対機説法」と言います。人を見てその人に最もふさわしい言葉を使ったのです。ヤサはたちまちのうちに出家を決意、弟子に

なってしまう。これがきっかけとなつて、商人たちの間に仏教が広まっていきました。

修行者たちも改宗

当時のインドにはバラモン教の指導者たちが各地におり、多くの弟子を抱えていました。カッサパ三兄弟には一〇〇〇人の弟子がいました。お釈迦様は彼らを訪ねて、

「一晩あなた方の聖火堂に泊めていただけませんか？」

「ただ、あの聖火堂には一噛みで人を殺してしまう大蛇が住んでいますよ」

お釈迦様は構わず聖火堂に入り、座つて瞑想に入りました。すると、大蛇が火を吐きながら襲いかかってきました。翌朝、三兄弟が恐る恐るお堂のなかを覗いてみると、お釈迦様は泰然と座っており、大蛇は小さく縮んでいました。さらにお釈迦様は、三兄弟の目の前で神通力と霊力により、いくつもの奇跡を起こして見せたのです。

三兄弟は、自分たちの悟りの低さとおごりを痛感し、お釈迦様への帰依を誓いました。一〇〇〇人の弟子たちも一緒に帰依したため、ここに大教団が出現することになりました。

祇園精舎の寄進

シユラーバステイという都にスタッタという大富豪がいました。彼は、孤獨な人に食事を与えることで有名でしたが、お釈迦様の説法を聞いて感激し、在家のまま信者となりました。僧院を寄進したいと考えた彼は、皇太子のジエータが持っていた園を売ってくれるよう頼みました。

しかし、皇太子は「たとえ金貨を敷き詰めても売れない」と断りました。これを聞いたスタッタは、金貨を地面に敷き詰めはじめました。その熱意に感動した皇太子は園全体を寄進。スタッタが僧院を建てました。

お釈迦様はこの地を気に入り、大勢の弟子とともにしばしばここに滞在し、教えを説きました。これが、『平家物語』でも有名な祇園精舎です。ここでの説法から多くの経典が生まれています。

その後、さらに多くの弟子たちの物語が生まれますが、それは次回ということにいたします。

禪の言葉入門

日々是好日

私たちは何かあると「明日はい日だろうか、悪い日だろうか」と心配します。でも、考えてみてください。私たちは宇宙から見れば、本当に小さな存在です。大きな手によって生かされている身ではありません。昨日も明日もないのです。

生かされている今日という日を精一杯生きていけば、それで十分ではありませんか。もし明日死ぬことになったとしても悔いのないように、今という一瞬一瞬を積み重ねていく。それも喜びをもってそうすれば、毎日が取って置きのよい日になるに違いありません。幸福感に浸りながら目覚め、充実した一日一日に、生命も輝きを増すことでしよう。明石家さんまさんではありませんが、「生きていくだけで丸儲け」なのです。この言葉は、臨南寺カレンダーの十月の言葉になっています。味わいながら眺めてください。

(八〜九月)

□ 墓前回向 (旧墓)

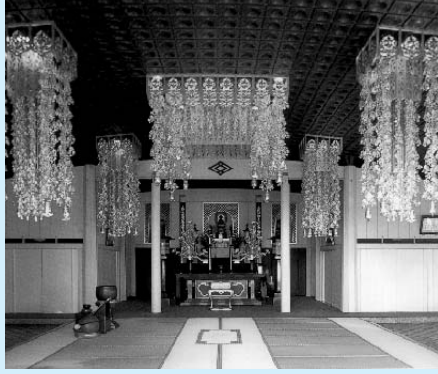
八月十日 (火) 午前十時〜十二時
八月十二日 (木) 午後七時〜九時
● 弁天様万灯会

□ お盆会

八月十六日 (月)
午前九時〜午後一時

□ 彼岸会
ひがんえ

九月二十六日 (日) 午後一時〜三時



□ 本堂ご開扉

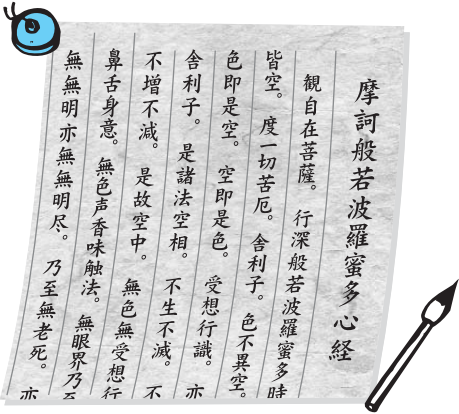
八月十三日 (金) 〜十五日 (日)
九月二十日 (祝) 〜二十五日 (土)
(いずれも予定)
午前九時〜午後三時まで、ご焼香の用意しておりますので、お参りください。

お彼岸に写経を
なさいませんか？

お彼岸写経会

臨南寺では、九月二十日 (祝) 二十五日 (土) のお彼岸期間中、午前十時から午後四時までお写経をしていただけます。一文字書くたびに仏様一体を刻むといわれる写経は、亡くなられた方のご冥福を祈り、功德と浄福を授かります。

書き上げられたお写経はねんごろに回向させていただきます。随時、受付しておりますので、お気軽にお申し付けください。



摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時
皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。
色即是空。空即是色。受想行識。亦
舍利子。是諸法空相。不生不滅。不
增不減。是故空中。無色無受想行
鼻舌身意。無色声香味触法。無眼界乃
無無明亦無無明尽。乃至無老死。亦

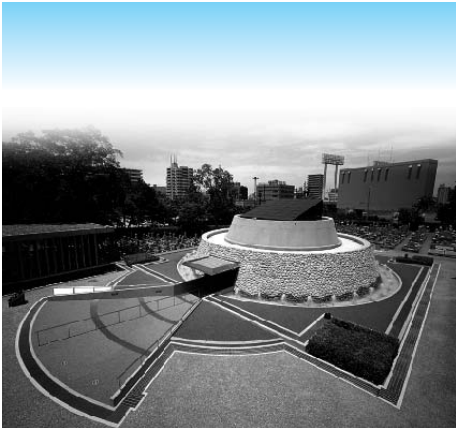
マトリ合同法要

「若葉祭」行われる

五月九日 (日) 午後二時から、
がつしょう園マトリの合同法要

「若葉祭」が営まれました。本
堂で泉溪寺住職山本能人老師の
法話を聞いた後マトリに移り、
読経が続くなかで焼香を行いま
した。

がつしょう園マトリは、お墓
の継承者がいなくなっても永代
にわたって供養してもらえ永
代供養墓です。少子化、都市化
の中で注目を集めており、清浄
な雰囲気漂うマトリは希望され
る方も増えております。



お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

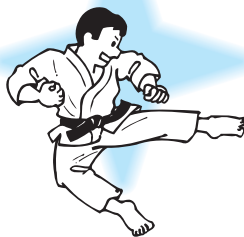
第一土曜日 午前六時三十分〜
一月・八月は中止します。

写経会

毎月二十日 午前十時〜午後四時
写経料／二〇〇〇円

子ども空手教室

毎週木曜日 午後七時〜九時
一か月／六〇〇〇円



※いずれも事前のお申込みが必要です。

「ほ〜と」12号

平成16年7月

編集・発行：椋伽林「ほ〜と」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001 FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com

編集後記

いつも元気で誰からも慕われた方丈がとうとうみまかりました。心にぽっかりと大きな穴があいたような気持ちです。今号の内容はいかがでしょうか。ご感想をお寄せください。採用分には粗品をお送りします。お気軽に編集室までお送りください。FAXでも結構です。